

論文審査の結果の要旨

氏名：森田 聡志

博士の専攻分野の名称：博士（獣医学）

論文題名：わが国の野生鹿、猪における新興食中毒起因菌の保菌状況と分離株の病原性解析

審査委員：（主査）教授 壁谷 英則

（副査）教授 丸山 総一

教授 遠矢 幸伸

専任講師 佐藤 真伍

本論文では、近年の野生鳥獣生息数の増加に対する国の政策として実施されている、野生鳥獣肉の食用利用におけるリスク評価の一環として、わが国で捕獲された鹿や猪の糞便中から、3種類の新興食中毒起因菌を検出する試みである。さらに得られた分離株については、全ゲノム解析技術を応用して網羅的な病原関連遺伝子を検索することにより、それらの病原性を評価したものである。主な新知見として、腸管出血性大腸菌0157については、①わが国の野生鹿、猪から腸管出血性大腸菌0157は海外と同程度に分布していること、②当該0157は比較的病原性は低いと考えられること、③当該0157は、家畜との間で伝播している可能性があることを示唆した。*Campylobacter*については、④わが国の野生鹿、猪には*C. hyointestinalis*が、特に猪で高率に分布していること、⑤*C. jejuni*, *C. coli*と同様の病原関連遺伝子を保有していることから、人に病原性を示す可能性があることを示した。さらに近年注目を集めている*Arcobacter*属菌についても、⑥わが国の野生鹿、猪には*A. butzleri*を高率に保菌していること、⑦当該分離株の病原関連遺伝子性状から、一部の株は人に病原性を示す可能性があること、を明らかにした。

以上の成績は、野生鳥獣肉の食用利用のさらなる推進のため、野生鳥獣肉のリスク評価として活用され、安全、安心な、野生鳥獣肉の加工処理方法の確立にも大きく貢献することが期待される。

よって本論文は、博士（獣医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

令和4年 2月 4 日